



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL https://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/2024年5月31日

過去最多275名が参加 今年度の合同清掃がスタート

今年度1回目となる問屋町合同清掃が4月11日(木)に行われ、組合員及び近隣企業から275名が参加。昨年6月に記録した262名を更新し、過去最多となる参加者数を記録した。

2002年度から実施して

いる当清掃活動は今年で23年目を迎える。当初50名程度の参加から年々参加者が増え、昨年度は年7回の開催で延べ1700名を超えた。参加者数は年々増加する一方で落ちているごみの総量は減少傾向にあり、清掃活動を通じて問

屋町の景観美化向上が図られている。

また、昨年度からは問屋町にクラブオフィスを構えるプロサッカーチーム「ラインメール青森FC」の選手らも清掃活動に参加。今回も40名を超える方々が参加し、問屋



道具を携えて清掃活動に向かう参加者



ラインメール青森の活動をPR



冬期間に溜まったごみを回収

町と第二問屋町に分かれて組合員らと一緒に清掃活動を行った。清掃終了後には集合場所へ戻ってきた組合員一人一人に労いの言葉をかけるとともに、今シーズンホーム開幕戦のPRも行った。

参加者からは「問屋町で働く一人として少しでも清掃活動に協力できたことは良かったです。次回もまた参加します」などの感想が寄せられた。

リサイクル事業収益金を 福祉団体に寄贈

組合では毎年、リサイクル回収事業で得た収益金を福祉団体等へ寄贈する活動を実施しており、今回で10回目となる。

5月13日(月)に、空き缶・ペットボトル及びパソコンリサイクル回収事業での収益金あわせて10万円を青森市社会福祉協議会へ寄贈。組合の柳谷理事長から同協議会の成田会長に目録が手渡され、リサイクル回収事業の概要や実績などを紹介した。

SDGsを推進する組合で

SDGs 標語コンクール受賞作品

紙減らし 未来へ足跡 デジタル道

(株)青森共同計算センター 三上 智幸氏



柳谷理事長(右)が目録を手渡す

は、今年度も引き続きリサイクル活動を推進し、より一層の社会福祉に貢献すべくリサイクル回収で得た収益金の寄付活動も継続していく。

組合公式LINE アカウント開設など承認 第1回理事会

2024年度第1回理事会が4月25日(木)に問屋町会館で開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また、事務局からは2023年度交通事故実態調査結果などについて報告した。

主な案件審議は次のとおり。
案件一・労務対策委員会からの意見について

案件二・企画情報委員会からの意見について

案件三・組合施設の賃貸について

案件四・第57回通常総会の開催方法及び提出案件について

緑のボランティア隊 隊員募集

組合では現在、街並・景観整備の一環として、団地内の美化緑化推進運動に取り組み「問屋町緑のボランティア隊」の隊員募集を行っている。

6月から10月の間、月1回程度、日曜日の午前中に組合管理地への花苗植栽や幹線及び枝線道路の街路樹剪定、除草作業などに取り組み。作業に必要な道具等は全て用意しており、小さなお子様でもできる作業もあるので、ご家族で気軽に参加していただきたい。

案件五・2024年度第3回理事会の日程等について
その後、青森卸センター(株)の臨時株主総会と第1回取締役会及び青森問屋町配送(株)の第1回取締役会も開かれ、審議の結果、提出案件全て原案どおり承認された。

理事会終了後には、昨年12月に青森市副市長に就任された市のまちづくりを担当されている横山副市長を講師に招き講演会を開催した。同氏は「青森市の市道は約1900kmあり、管理や雪による負荷もあって市街地をどんどん拡大することは好ましくない。青森県都市計画マスタープランや青森市総合計画の下に青森市都市計画マスタープランを策定して基本方針や制約等を決定

2023年度 リサイクル回収実績

申込方法などについては組合ホームページにて公開している。お問い合わせは卸センター業務部(後藤)まで。

2023年度における団地の塵芥収集・リサイクル回収の総回収量は452t、そのうち288tをリサイクル回収が占め、リサイクル回収率が63.7%となり、例年同様高いリサイクル率を維持した。

組合では一般ごみの個別収集に加え、紙類リサイクルや空き缶・ペットボトル、木製



横山副市長の講話

めまちづくりを進めている。近年、中心市街地の再開発が進んだが、まだまだ地価が安く投資対象になりにくいのが課題。地価が高まる仕掛けを今後も進めるが、建築価格高騰の影響で再開発が実施し

第3回税務研修会

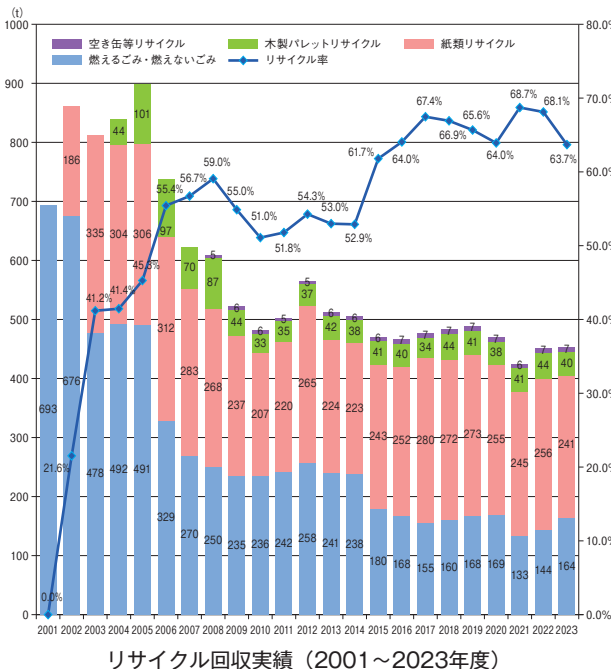
3月6日(水)に問屋町会館1階会議室において第3回税務研修会が開催された。青森法人会と共催で開催された研修会では、青森税務署の田代審理専門官が講師を務め、組合員従業員ら13名が参加した。

今回は3月期決算の組合員も多いことから「令和6年度税制大綱のポイント」と「令和6年決算期以降の注意事項について」をテーマに説明があった。



税務研修会

得税の定額減税については、減税に関する概要やよくある質問などの事例を交えて解説。研修会ではそのほか、インボイスや電子帳簿保存法についても学んだ。



リサイクル回収実績 (2001～2023年度)

創業 明治 39 年

- 計量器製造(経済産業大臣) ●計測器修理(青森県知事)許可
- 建設業登録 ●機械器具設置工事業(青森県知事)許可(般-1)第15046号
- 電気通信工事業(青森県知事)許可(般-1)第15046号

健康管理測定用機器 (体組成計・血圧計・活動量計他)
レタースケール・キッチンスケール・アルコール検知機
測定機器・測定機器・観測機器・気象観測機器・試験機

青森株式会社 西衡器製作所

本 社 〒030-0801 青森市新町二丁目6番20号 TEL (017) 773-1311 FAX (017) 723-2368
青森支店 〒030-0113 青森市第二問屋町四丁目2番30号 TEL (017) 739-9555 FAX (017) 739-9557
八戸支店 〒039-1121 八戸市卸センター一丁目5番16号 TEL (0178) 21-8100 FAX (0178) 21-8101
弘前支店 〒036-8093 弘前市城東中央三丁目4番14号 TEL (0172) 26-3890 FAX (0172) 26-3891

総合食品卸 トモシアホールディングス

丸大堀内株式会社

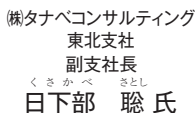
〒030-0131 青森市問屋町2丁目15番22号
電話 017-738-4311

今年の納涼パーティーの様子

タナベコンサルティンググループは1957年に創業した日本の経営コンサルティングのバイオニアです。「企業を愛し、企業とともに歩み、企業繁栄に奉仕する」という経営理念のもと、ビジネスモデル、デジタル・DX、人的資本、ファイナンス、M&A、

組合では、SDGs推進及

援でできる「経営コンサルティング」を地域
グ・バリューチェーン」を地域
密着で構築していきます。



週伺つており
ます。地域社会の課題、それは「人
口減少」と「高齢化」。2045
年高齢化率（人口に占める65歳
以上人口比率）は1位秋田県
50・1％、2位が青森県46・8％。
人口減少と高齢化は地域経済を
縮小させ、さらなる人口減少と
少子高齢化につながる悪循環を

び環境負荷低減に向けて、プラスチックの使用削減を図ります。会議やイベント等で使用する飲み物がペットボトルから缶製品に変更となりますのでご理解願います。



4月
11日▽第1回問屋町合同清掃
15日▽金融審査会
18日▽第1回三役会
22日▽第1回監査会
23日▽第1回労務対策委員会
24日▽第1回企画情報委員会
24日▽問屋町経営同友会第1
回役員会
25日▽第1回理事会
▽青森卸センター(株)臨時
総会・第1回取締役会
▽青森問屋町配送(株)第1
回取締役会

せんか」とお願いする会社。差は歴然としています。(それでも活動しないよりは良いですが)

デジタル化、AI、価値観の変化、経営環境は日々変化しています。コンサルタントとして各社に何う中で「怖いな」と思うのは、経営環境の変化を感じようとしないう経営者、経営幹部です。自社が同じことをしていても、経営環境が進化すれば業界ポジションは下がります。収益が減れば、人材、デジタル、設備への投資余力がなくなります。

インフレ時代、利益を生み出すのは「付加価値」です。高くても購入して頂ける価値。それを生み出すのは「イノベーション」。イノベーションとは「新しいアイデア」と「実践力」です。(つづく)

JAC 未来をネ
WWW
ホームページ
弊社データセ
株式会社青
〒030-0113
電話 017-77

〒030-0113 青森市第二問屋町3-10-26
電話 017-771-1111 FAX 017-771-1123

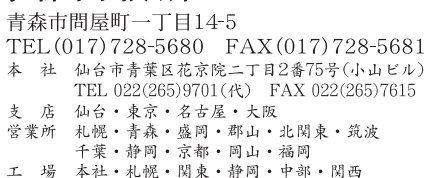
サービス付き高齢者向け住宅 県内24棟運営
シニアマンション・シルバーピュア

高齢者の方に、明るく、清潔なバリアフリーの住居を提供し
心身ともに健康を維持、回復していただくことを支援しています。

有限会社ファイナンシャル・サポート
特定非営利活動法人ラ・シャリテ ㈱MT・Community

- 月額 70,000～100,000
- 全室個室・専有面積 12.5～14 帖
(バス・トイレ・キッチン・収納・冷暖房・緊急通報装置完備)
- 安心できる生活サポートサービス
- お一人お一人に合わせた介護サービス

青森市第二問屋町 3 丁目 3 番 31 号
TEL 017-739-6538
FAX 017-762-2357
 0120-934-741



〒030-0131 青森市問屋町1丁目5-12
TEL:017-718-5160 FAX:017-764-3840

無料相談コーナーの メニュー追加

組合で実施している「専門家による無料相談コーナー」に新たなメニューが追加され、SDGsアドバイザーとして青森大学教授の榊引素夫氏がラインナップに加わった。

組合のSDGs推進管理委員会の座長も務める同氏は、SDGsに関する取り組み方等の相談に応じる。

同コーナーでは相談日は特定せず、組合員からの依頼があった都度、専門家と相談のうえ日程を調整して開催。1社月1回、相談時間は30分程度までであれば無料。それ以

2023年度交通事故実態調査 安協間屋町支部

降の個別相談は有料となる。

青森交通安全協会間屋町支部が会員を対象に2023年度交通事故実態調査を実施、その結果がまとまった。

全142社から回答を得た調査の結果、無事故（加害事故件数0件）会員事務所は103社、72・5%であった。加害事故件数は42件と前年度から9件減少したが、被害事故は前年度から15件増加して40件であった。

加害事故発生要因で最も多かったのは「前方不注意」の14件、次いで「後方不注意」が11件、「スリップ」「右左折

時の不確認」がそれぞれ5件という結果となった。

また、事故発生時期の調査では、全体の47・5%が冬期間（12月～3月）を占めた。2025年3月14日の間屋



視界不良の冬期間は特に注意が必要



間屋町内の交通事故発生箇所

町内交通死亡事故ゼロ1万日達成まで残り3百日を切った。同支部では1万日達成に向け、本調査結果を参考に引き続き交通安全の啓蒙活動に力を入れ、安全運転の呼びかけを継続していく。

団地企業訪問

「先代の想いを受け継ぎ、新しいサインの価値を創っていきたくです」と目を輝かせているのは、今年1月に株式会社エイアイサインの代表に就任した石澤社長。

同社は昭和61年に屋外広告業としてスタート。現在では青森県内全域で店舗看板や野立・イベント看板をはじめ、ディスプレイやスタジオセット、イルミネーションや公共サイン、カーマージングなど幅広く製作業務を行う。また、サイン製作に加えて、モニュメントやシンボルサイン・空間デザインなどの大型立体造形物の製作業務も行っている。



(株)エイアイサイン
代表取締役社長
石澤 安久里 氏

「当社はデザインから製作・設置・アフターメンテナンスまで一貫したサービスを提供しており、その場の景観と調和し、培ってきた風土を活かせるようなサイン作りを心掛けています。そのため技術だけでなく、美しい風景や人の優しさに気づき感謝できる感性を日々磨き続けます」と話す。

新たな取り組みについて聞くと「今後は建物内装や外装などのデザインにも携わっていければと考えています。素材までこだわりの個性を生かし、仕事を通じて自分自身の夢がみつかるような職場にしていきたい」と話す。

が、まずは会社の理念から外れないよう社長業に地に足を付けてところから始めていきたいです。そして社員一人ひとりの個性を生かし、仕事を通じて自分自身の夢がみつかるような職場にしていきたい」と話す。

「問屋町はアットホームで居心地が良い」と教えてくれた同氏のプライベート面に話が及ぶと「小学生の頃ピアノを2年間だけ習っていたのですが、コロナ禍で時間ができたことをきっかけに独学で練習を再開しました。3年ほど前から度胸をつけるため、いろいろな所に設置されているストリートピアノを演奏しています。運動面では毎日筋トレはしていますが、ランニングが月1回くらいしかできていないのでマラソン大会に出るなどの目標を検討しています」と苦笑い。

石澤社長が持ち歩いている手帳の1ページ目には、座右の銘の「単純明快」の文字が記されている。

(33歳)

編集後記

今年も問屋町合同清掃がスタートしました。昨年からはラインメール青森FCのみなさんにも参加いただき、参加者が増えたのとあわせて華やかさが増しました。地域に愛されるクラブを目指すラインメール青森FCをぜひ応援ください。

さて、4月から環境負荷低減やプラスチックの使用削減を図るため、組合の会議やイベント等で使用する際の飲み物をペットボトルから缶製品に変更しました。これは、SDGs17のゴール、14番「海の豊かさを守ろう」に対応したものです。プラスチックごみは、毎年なんと約800万トン（ジャンボジェット機5万機分）もの量が海に流出していると推定されており、その対策は急務です。プラスチックは軽くて耐久性があり私たちの生活には欠かせないものになりましたが、紙や布、鉄などと違って微生物に分解されないことから環境中に流出するといつまでも自然の中に残ってしまいます。その最後の行先が海です。昔、綺麗な海岸も今はプラスチックごみで溢れているところも多いですし、細かくなったマイクロプラスチックが水や魚介類を介して体内に摂取されているという研究発表もあります。プラスチックを海に流出させないことも大切ですが、それよりも簡単なのはプラスチックをできるだけ使わないことや物を大切に使うことです。みなさんと一緒にできることからコツコツと取り組んでいきたいと思っています。（小田切）

サイン・デザイン・モニュメント

株式会社

エイアイサイン

TEL 0172-62-5508

〒038-1331 青森市浪岡女鹿沢字西花岡 82-1

- ・エクステリア工事全般
- ・お庭のリフォーム
- ・コンクリート駐車場
- ・カーポート
- ・人工芝
- ・フェンス



エクステリアショップ Leaf
(有)第一造園

青森市荒川字柴田60-11
TEL 017-718-7830

お見積り・相談無料



HP 公式LINE